
私と幼馴染の観察処分者

黒猫in軒下

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私と幼馴染の観察処分者

【NNコード】

N4361Y

【作者名】

黒猫iの軒下

【あらすじ】

吉井家の隣に住む少女富野唯は明久の幼馴染。バカな明久やその友人たちに振り回されつつも学園生活を送っています。

プロフィール？（前書き）

趣味と暇つぶしを兼ねて書いた文です。感想などあればぜひ、お願
いします。

プロフィール？

宮野唯
みやの
ゆい

身長154cmで胸はD。

髪の色は薄紫で瞳は赤。

両親は物心つく前に離婚していて、母方の下で生活。やや、ドジな所もあるものの本人は認めていない。

母は仕事で忙しいため家事もそれなりにできる。

吉井家とは隣で付き合いも長く、明久の両親に面倒を見てほしいとの頼みを受けていたため合いがきを貸してもらっている。

かなりのゲーオタで買ったゲームは諦めないとポリシーを持っている。

口の方向に対しても耐性が微塵もなく保健体育の点数は1桁となっているが、それ以外の科目は一部を除き、Cクラスレベル。典型的な理数系で物理限定で400点オーバー。文系はFクラス程度。振り分け試験の前日に母が倒れてしまい看病していたため、試験を受けていない。

召喚獣の装備はゲームやアニメのハマりすぎの為か、ガダムのビームサイズが武器。
腕輪の力でハイパージャマーを使用可能。

唯の母。年は3ピー歳である。

唯が生まれて間もなく旦那と離婚しており、ほぼ女手一つで唯を育ててきた。

吉井家とは古くから交流があり、助けてもらったこともある。

ゲームなどにハマりやすくなる娘を心配しつつも、温かく旦那を見守っている。

第一話（前書き）

感想などあればぜひお願いします。

第一話

バカテスト 化学

調理の為に火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料にえらんだところ調理を始めるとな問題が発生した。この時の問題点と代わりに用いるべき金属合金の例を一つ上げなさい。

姫路瑞希の答え

『問題点・・・マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応するため危険であるといつひつ。

合金の例・・・ジュラルミニン』

教師のコメント

正解です。合金なので鉄では駄目だといつひつかけ問題なのですが、姫路さんは引っかかりませんでしたね。

土屋康太の答え

『問題点・・・ガス代を払っていなかつたこと』

教師のコメント

そこは問題じゃありません。

吉井明久の答え

『合金の例・・・未来合金（　凄く強い）』

教師のコメント

凄く強いと言われても。

富野唯の答え

『テフスライト鉱石』

教師のコメント

先生も集めるのに苦労しました。

「よし、お母さん、行つてくるねー！」

「気をつけてね～」

お母さんに見送られながら、幼馴染で隣に住んでいる明君の家に向かう。

去年から大抵一緒に登校していたけど、どうやら今日は・・・寝坊してゐみたい。新学年そつそつ寝坊つて・・・大方ゲームでもしてたんだろうな。

「明くん。寝坊だよ～（ンドンド）」

・・・・・
・グウ・・・

扉を叩いても反応がないどころかいびきまで・・・勝手に入るのは明君に悪いけど寝てる明君が悪いよね。

み場もないよ・・・明君のベットに近づくと、何かを踏んで

「きやあー!? (ズルッ)

思いつくり尻もちをついてしまう。ホントに足の踏み場がないよ・・
とりあえず踏んでしまったものを見ると、

明君の工口本だと解つた瞬間無意識に持つていたそれを明君になげる。当然それは明君に飛んで行つて

工口本

ゴツツ

「いいだああああ！？なになに！？なんなのさ！？しかも僕の参考書（H口本）！？それと唯！？やっぱっ！これを速く隠して・・・」

「速くそんなの捨てて準備してえ――――」

「は、はいいっ。」

あわただしく明君の朝が始まるのでした。

「ほら、急いで明君！ 遅刻しちゃうよー。」

あれから5分後、私たちは文月学園に続く坂を走っている。もう10分切っちゃったし・・・

「ハア、ハア・・・砂糖が切れてるなんて最悪だよ・・・」

「最悪なのは明君の食生活と成績でしょ・・・明君の料理美味しいのに・・・」

「唯、ここで僕を貶す！？それと唯が間違えて姉さんのセーラー服を出したのも原因だからー去年も同じようなことがあつたきが・・・」

「

「・・・・・・・」

そんな事実は確認されてないもん・・・
ただ、このやりとりの間に文月学園に到着できたから先生に挨拶をする。

「て・・・西村先生おはよひびきでいます」

「てつじ・・・おはよひびきであります」

「おう、富野と吉井か。おはよひ・・・お前たち鉄人つていいか
けなかつたか・・・」

「アハハ。気のせいですよ」

「む? ならいいが・・・」

あやうく鉄人つて呼ぶところだったよ・・・

「ほれ、クラス分けの通知だ。・・・富野、残念だったな

「確かにFクラスは不安ですけど、お母さんの方が大事ですし」

実はお母さんが倒れたからその看病で振り分け試験を受けていない。
Fクラスは少し不安だけどお母さんが元気に回復したんだから後悔
はしていないし、明君には悪いけど多分明君もFクラスだと思うし。

「そういえば波江さん大丈夫だった?まあ、僕はDクラスあたりに入るとと思うから唯とはお別れだね」

その自信はないからやつて貰うのかな?すると西村先生が急に話しが始めた。

「吉井。今だから言つがな

「?何ですか・・・なかなか開かないな

「俺はお前を去年一年間見てきて『もしかすると、吉井はバカなんじやないか?』なんて疑いを抱いていたんだ」

「それは大いなる間違いですね。そんな誤解をしていくよ!じや、『節穴』なんてあだ名をつけられちゃいますよ?」

そういうば振り分け試験は上手くいつたみたいなことを言つてたつけ。ストライカーシグマーとか使ってなきや良いんだけど・・・

「ああ。振り分け試験の結果を見て、先生は自分の間違いに気づいたよ」

「そう言つてもらえるとうれしいです」

明君は丁寧に開けるのを諦めて上の部分を破つて、通知の紙を取り出した。

「喜べ吉井。お前への疑いは無くなつた」

そこにはやはりFの文字が大きく書かれていた。

第一話（前書き）

申し訳あつません…テストなどやがじへ…では、さう。

第一話

バカテスト 国語

問 以下の意味を持つことわざを答えなさい。

『（1）得意なことでも失敗してしまつ』と

『（2）悪いことがあつた上に更に悪いことが起きる喰え』

姫路瑞希の答え

『（1）弘法も筆の誤り』

『（2）泣きつ面に蜂』

教師のコメント

正解です。他にも（1）なら『河童の川流れ』や『猿も木から落ちる』、（2）なら『踏んだり蹴つたり』や『弱り田に張り田』などがありますね。

土屋康太の答え

『（1）弘法の川流れ』

教師のコメント

シユールな光景ですね。

吉井明久の答え

『（2）泣きつ面蹴つたり』

教師のコメント

君は鬼ですか。

宮野唯の答え

『（2）踏んだり蹴つたり（この前明君が小銭を落として屈んだときには車に水を思いつきり撥ねられた）』

教師のコメント

吉井君には悪いですが体験談で覚えたよつて良かったですね。

「……なんだか、このバカでかい教室は」

「……JRまで遠いと逆にFクラスが心配だよ・・・」

去年は全くと言つていいほど来たことのない三階に行くと田に入つたのは並みの五倍はあるんじゃないかなって思つほど大きな教室だつた。大きな窓から中を覗いてみると、眼鏡をかけてスースを

着こなしたいかにも「知的！」な感じの先生がいた。……ん？

「これ遅刻してるよね！？明君、走るよ！」

「これがAクラスかあ。え？……先生がいるつてことは……わあああ
！」

思わず教室に見とれてしまっていたけど、先生がいるつてことはほぼ遅刻だということ。せめてこれ以上遅れないようにFクラスがある旧校舎へダッシュ。朝から続けてのこれは大変……走っている間にFクラスの教室前にやっと到着。

「ふう〜。やっと着いた　　って言つていいのかな……？」

「私たち異世界に来たつけ？」

とても教室と認めたくない外観の教室（？）に着いたのは良いんだけど……ここはやつぱりFクラスなんだね……クラスが書いてある木のプレートなんて今にも落ちそしだし。

「……ここにいてもしょうがないから入ろうか」

「う、うん」

教室についてはともかく、一応遅れてるから謝りつつ入る。

「すいません。遅れちゃいました……」

「早く座れウジ虫や　　ハツ！？唯か！？」

「雄一君！？」「クラスだつたん　違う！私悪いことした！？」

待っていたのは「」…去年のクラスメイトであり、男友達の雄一君の罵声。恨まれるようなことをした覚えは無いんだけど…

「ち、違うぞ！…これは明久にだな」

「美少女に罵声を浴びせるとは…死刑！」

「　　死刑！」

「ちよ、待て、お前らー、ギャアアアー！ー！」

あつという間に覆面集団に飛びかかられて集団リンチにあつ雄一君。といつかクラスの大半にボコボコにされてる…

「どうしたの誰？」

すると遅れながら明君が教室の中に。

「えへっと、実はかくかくしかじかで」

「唯一悪かった！謝るから助けてくれー、明久も頼む、助けてくれー！」

「ふむふむ。…くたばれ雄一いいつー！」

「ギャアアアー！……」

説明を聞き終えた明君は雄一君を助けることなく、むしろ攻撃を始めた。といふかさつき贬そうとした明君に助けを求めるつて…雄一君の思考回路はいまだに読めない。

「すいません。ちょっと通してもらいますかね？」

クラスの皆が雄一君に制裁を加えていると、霸氣のない声が響いてきた。

振り向くと、失礼だけどいかにもさえない感じのオジサンが立っていた。どうみても生徒には見えないから多分このクラスの担任なんだろうなあ。とにかく近くの席（？）というか床に座る。

「おはようございます。——Fの担任の福原慎です。よろしくお願ひします」

福原先生は薄汚い黒板に名前を書こうとしてやめた。チョークすら用意されてないってここは学校なのかな・・・

「皆さん全員卓袱台と座布団は支給されていますか？不備があれば申し出てください

これに不備が無いと言い切る人はまともじゃないよね。畳とかを新調したら良い教室になる気がするんだけどなあ。

「せんせー、俺の座布団に綿が殆ど入ってないです」

「あー、はい。我慢してください」

「先生。窓ガラスが割れてて風が寒いんですけど」

「わかりました。あとでビニール袋とセロハンテープの支給を申請しておきましょ」

どうやらこの学園は意地でも状況をえるつもりが無いみたい。と言つたこのやうに一つて必要だったのか?呆けていると隣の明君の卓袱台の脚が折れた。

「せんせー。僕の卓袱台の脚が折れたんですけど」

「我慢してください」

「無理だつての……」

流石に無理がすぎるのよつな…

「はつはつは。冗談ですよ」

良かつたあ。流石にこれは変えてもら

「木工用ボンドが支給されていますので後で自分で直しておいてください」

…お母さん。私は転校したくなつてきましたよ…
学年の底辺のFクラスは厳しかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4361y/>

私と幼馴染の観察処分者

2011年11月21日18時14分発行